

メモ

 財団 北海道農業近代化技術研究センター

第44回地域活性化推進事業

講演会

-生産者と消費者をつなぐ『マルシェ・浜本』開店です-

「農業者の誇りを伝えるために」

(株)ファータイル 代表取締役 浜本さおり 様

と き：平成22年11月26日(金)

14:00~16:00

ところ：深川市文化交流ホールみ・らい

(深川市5条7番20号)



～安全な水と土壌が健康な農作物を育て私たちの生命と地域を守ります～

 財団 北海道農業近代化技術研究センター

(旧名称:北海道農業近代化コンサルタント)

主 催：財団法人 北海道農業近代化技術研究センター

後 援： 空知総合振興局

深川市・滝川市・妹背牛町

JAきたそらち・JA北いぶき・JAたきかわ

水土里ネット:深川土地改良区・神竜土地改良区・空知土地改良区

▶▶ごあいさつ

財団法人 北海道農業近代化技術研究センター
理事長 上田清美

本日は、地域活性化推進事業講演会に、ご参加いただき誠にありがとうございます。
当財団におきましては、公益事業の一つとして、「地域活性化推進事業」を実施してきておりますが、お陰様をもちまして今年で44回を数えることとなります。

さて、農業をとりまく状況は、世界的には新興国における人口増加や気候変動にともなう干ばつなどにより、食料需給は逼迫化の傾向にあります。わが国農業におきましても、食料自給率の低迷、担い手の高齢化・減少、地域活力の低下など様々な解決すべき課題があります。

農業の国際化が進展する中で、北海道農業が今後とも、持続的に発展していくためには、安全・安心な農産物の提供、生産者と消費者との交流による地産地消の促進などに積極的に取り組んでいくことが必要です。

このような事を踏まえ、今年は生産者と消費者との交流による新たな農業の展開を実践しておられます、浜本さおり様を講師にお迎えし、「農業者の誇りを伝えるために」をテーマに講演会を行うことといたしました。

浜本さおり様は、Uターン就農後、北のめぐみ愛食フェア、道産食彩HUG（札幌狸小路）などの立ち上げから運営に携わるなど、多彩な経験をお持ちであることから、今後の地域の活性化を推進する上で、有意義なご示唆をいただけるものと確信しております。

当財団では、これまでも地域農業の振興を図るため、食の安全・安心の基本となる土や水などの農村環境の保全に努めて参りましたが、空知地域の農業・農村がさらに発展していくためには、生産者と消費者が一体となった取り組みを進めていくことが大切であると考えております。

今後とも当財団の事業推進に当たり、ご理解とご協力を賜りますようお願い申し上げます、ご挨拶と致します。

▶▶講演者 浜本さおり 様 のご紹介

平成6年、北海道立岩見沢農業高等学校卒業後、岩見沢市内の民間企業に就職。

平成10年、アルファリゾートトナムに勤務。

平成15年、かねてからの目標であるUターン就農。

農作業をしながら、札幌パークホテル、プリンスホテル、三越、丸井と販路開拓を進める。

平成16年、台風で大きな被害を受けるも、ジャムを商品化。飛び込み営業を続ける。

平成18年、北のめぐみ愛食フェア in 空知の事務局長を務める。

農業に取り組むなかで、農業者の販路拡大を目指すことが、農業の経営安定に繋がると確信。

11月、サッポロさとらんど、農産物直売所開設のプロジェクトリーダーに就任。

平成19年、サッポロさとらんど農産物直売所『さとのいち』開店。

平成20年、道産食彩HUGを企画・準備。12月、道産食彩HUGオープン。

平成22年3月、株式会社ファータイル設立（代表取締役）。

5月、札幌市西区西町に生産者と消費者を直接結ぶ直売所、北海道まるごとマルシェ『エソまる』を開店。

▶▶講演内容

「農業者の誇りを伝えるために」

- 農業を目指すきっかけ
- 農業から販売を手掛けた訳
- 自分なりの農業支援を目指して
- 見つけた、農産物直売所（マルシェ）
- 本当の六次産業とは
- 時代
- 農業者の誇りとは
- 今までも、これからも、目指す未来
- ~農業者の誇りを伝えることで、得られる未来を信じて~